

## <H27年度第3回「自転車セミナー」>報告書

日 時：平成27年9月14日（水）18：00～20：00

場 所：自転車総合ビル6階601会議室  
（東京都品川区上大崎3-3-1）

講 師：おくだいら まさかず 奥平 正和 氏

テ マ：「信念があれば道は開かれる」

参 加 者：14名

◆奥平正和氏 1957年静岡生まれ。

1994年オートバイで世界一周46,000kmを1年かけて走破し、国内外のマスコミで紹介される。1999年アフリカ～中近東～東欧～ロシアへの旅に出発し2001年帰国。2006年には北中南米を横断しオートバイの旅は3部作として完結を迎える。その間、5大陸走破の全走行距離は167,000kmを数え、訪問国は102ヶ国に及ぶ。

2010年旅の風に誘われ、一度は終結した「旅人伝説」を行かずに後悔はしたくないとの一念でユーラシア大陸自転車横断の旅へ出発。2010年中国（上海）～ユーラシア大陸最西端（ポルトガル・ロカ岬）を走破。帰国後、幾多の体験「信念があれば必ず道は開かれる」を企業・団体・教育機関と東奔西走講演活動中。近著に「53歳が往くユーラシア横断自転車の旅(KKベストブック)」

### 《要旨》

30代半ば、自分の父親が病んで死んでいくところに直面し、「人間は死ぬ」ということを改めて噛み締めた。当時、男性日本人の平均寿命は76歳前後と言われおり、自分は折り返し点を過ぎている。これから体力気力は落ちていく一方であり、「こんなうだうだと生きている場合ではない！」と思い、自身は何がしたいのかを考えた。

「後悔なく生きたい」

「世界を見たい」

今から20年前、オートバイで世界一周すると決めた。

周りからは、「早く結婚して家を立てて落ち着けよ」と言われたが「俺はやってみたいことがある！」と言って旅に出た。

1994年、最初の度は37～38歳の1年間。

運転は下手、メカは音痴、言葉は通じない、身体には自信がない。

こんな状態で旅に出て、周りからは「アホじゃないか」と言われたが、自分はいきたかった。どこまで行けるかわからないので、1つ1つ進んだ。一つの都市をクリアし、また次の都市へ。それを繰り返していたら、だんだん東へ東へ東へ。地球1周、4万6千キロが終わっていた。

「嬉しかった！」

この最初の旅を通して「やればできる」「なんとかなるぞ」と自信がつき、次の旅へ。難易度が高いアフリカを目指した。年齢的にも体力的にも今のうちに行くしかない。

42歳。この時のバイクは250cc。船便でスペインバルセロナへ送り、西サハラルートでサハラを越えていった。1年7ヶ月の旅であった。

さらにバイクの旅は続き、次はアメリカ大陸。今度はロスでバイクを購入し旅に出た。今回の旅のバイクはDR650。ビッグタンクを付けてもらい、更に長距離を走るときはポリタンクを積んでいた。

カナダ、アラスカを回り、北極圏まで上がった。

雪と氷の世界で、恐怖しか感じなかった。「こんなところでトラブったらどうしよう。」極寒であった。

そこから南米へ渡り、ペルーのクスコへ。標高3500m。標高の高いところに行くと高山病になると聞いていたが、実感はなかったが、バイクが高山病になった。雨が降ってきてカッパを着ようと思ったら息切れがし、初めて実感した。頭は痛いし、気持ち悪いが、だんだん慣れてきた。

さらに世界最南端の街、ウシュアイアへ。猛吹雪であったが、アクセルは緩められず、バイクのシールドを左手でワイパーしながら走行した。

アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルと走り、アマゾン川を上る船にバイクを載せてもらい、マナウス、ベネズエラへ。1年間の旅であった。

これでオートバイ世界一周の三部作が完結した。

歳をとってからの旅は辛いので、50歳までに終わらせようと決めていた。三部作完結時49歳。充実感と喜びに満ち溢れていた。

日本に帰って生活していたら、不自由はなかった。

「ご飯は美味しい」、「自然がある」、「平和である」

しかし、しばらくするとだんだん物足りなくなってきた。

砂漠を越えた、国境を越えた、ワクワクが欲しい。あの刺激が懐かしいと。

もういいや、と思っていたが、また行きたいと思いだした。

世界中回ってきたが、中国は未開拓であった。

「これはまだ行ってないじゃん！」

だが、中国は制約が多く、外国人がクルマやオートバイで自由に旅行ができない。

しかし、自転車であれば行けるらしい・・・

オートバイでは世界を旅してきたが、自転車は全くの素人。

20代、30代であればなんとかなるかもしれないが、53歳。

「つらすぎる」「地獄だろう」と一旦は悩んだ。

しかし、「もしここで旅立たなかったら70、80歳になった時、なんで俺はあの時旅立たなかったのか？80歳の俺は無理だけど50歳の俺はできたかもしれない。どこまで行けるか分からないが、チャレンジはできるだろう。なにもしないで諦めるのか？トライした。やるだけやったよな。行けるところまで行ってやろう」と思い、再び旅へ。

2010年3月1日、静岡空港から上海にむけて出発。

中国とカザフスタンの国境まで約3ヶ月、5,000キロの旅が終わった。

次は灼熱の中央アジア。カザフスタン、ウズベキスタン、アゼルバイジャンを走破。

そこから、ヨーロッパ。温暖な気候を想像していたが、寒波の影響で極寒。

今回の旅はシルクロードの旅と考えており、トルコまで行ったら次はユーラシア大陸を横断し、ポルトガルの最西端、リスボンの先、ロカ岬まで行こうと決めていた。

ロカ岬に到着する前に海が見えた。「大西洋」だ。

こみ上げるものがあった。上海から走ってきたんだ。

よく言われるが、「そこまで行ってなにをするの？」と言われるが、何も無い。

名誉があるわけでもなく、お金がもらえるわけでもない。自己満足である。

ただ、「精一杯俺は生きた！後悔だらけで死んでいった親父の分も俺は精一杯生きた！」

嬉しくて嬉しくて号泣した。

総走行距離1万4000キロ、11ヶ月

金も地位も名誉も関係ない。「俺はやったぞ！」それだけでいい。

理由なんて無い。「やりたいんだ」本能に従って生きた。

旅を終えて帰ってくると毎回言われることがある、「運が強いね」「強運だね」と。

これだけ旅をしてきて世の中にいる運の良い人、悪い人が見えるようになってきた。私は海外の友達もいるし、近所の友だちもいる。遠くの友達なのに連絡取り合って遊びに行ったり、来たりしている人もいれば、近所に住んでいても全く会うことがない人もいる。

嫌いなわけでもないし、喧嘩しているわけでもない。

それはなぜか。「波長が合わない。」

似たような波長の人はお互いを引きつけます。

どういう波長かによって、人生は全く変わってくる。

例えばエチオピアを旅した2名に話を聞いた。

Aさんは「すごく良かった！」人は親切だし環境も良い。

Bさんは「最悪だった！」環境も良くないし、汚い・・・。

Bさんは始めからエチオピアを敬遠していた。

同じ場所を旅行した2名であるが、自身の考え方によって起こる状況は変わってくる。

惹きつける人間も変わってくる。身に起こる出来事まで変わってくるのでは無いだろうか。

波長とはいうものの、簡単にいえば、その人がどんな価値観、人生観、考え方を持っている

るかということである。考え方がその人間を作り上げる。

波長は似たような人と引き付け合うことがある。様々な人を見てきて、その人の考えに見合った行動を取って、行動に見合った結果が返ってきている。

思考はエネルギーであり、それが強ければ強い程、引き付け合う。意識のあり方で、経験するものが変わってきて、その経験が考えになり、考えがまた経験になる。元の考えが悲惨だと、どんどん悪循環になる。

本当にそういうことがあるのだと思っている。運がいいだけでは無い。

その人の意思によって人生は創造していけるんだとおもってから、ポジティブに考えるようになった。「どんな状況でも俺は大丈夫」「絶対いい旅をして、感動の旅をして、絶対に日本に帰る。」ひたすら自分に言い聞かせて、そのように言葉を発してきた。どんな貧しいところでも対等に接して、誠実に生きようと思って行動している。

想いによっていろんなことは造っていけるのだと感じている。だが、想いではどうにもならないことも有るかもしれない。

地震や津波、洪水、事件、事故、色々な状況で亡くなる人がいる。どこの時代に、どこの国に、何人で生まれて来るかなんてどうにもできない。

でも、人間が関わっていることであれば、意思の力が及ぼす影響はとても大きいと考えている。

私が今も元気なのは、たまたまではなく、「そうしてきた」からです。「想っただけで人生そんなに変わらない」と言われることがありますが、感じ方は様々で、「そんなこともあるんだなあ」と是非使ってみて下さい。

どうするか、明確な定義付けをします。「俺はどういう自分でありたいか」「どういう人生でありたいと思っているか」そのように意識して、自分に「こうありたい」と言い聞かせると変わってくる。いい加減だった私もポジティブになった。性格はなかなか変わらないが、心構えや意思が変わると見え方が変わってくる。そうするといろいろな事が変わってくる。意識して生きるのと、何も意識せず、なんとなく生きているのでは、長い人生とても大きな違いが出てくると思います。

僕は常に意識しています。

沢山の人を見てきましたが、自分の不幸を人のせいにしたり、我が身の不幸を嘆いている人もいました。ですが傍から見ると“あなたがその状況を作っているんだよ”と思うことが結構あります。常に不平や不満や愚痴を言っている人がいますが、そういう人って幸せな人が居ないんですね。俺は幸せでありたい、喜びと笑いと感動の人生でありたい、それにはいい波長の人間でないと絶対に無理である。

こういうふうにおもっていれば、どんなにしんどいことでも、病気や怪我があってもそれでも俺は前向きに生きるんだと。

不平、不満を言う前に、もし災害に遭おうが、もし明日ガン宣告を受けて余命半年と言われても、何も悔むまい、感謝をしてこの世に生まれてきた喜びをもって生きよう自分を

明確に定義付けしたのです。こういう波長の人間として生きると。その結果、58歳の今でもこうしてピンピンと飛び回ることができている。

ラッキーだけではなく、そういうふうになってきているのではないかな、と思っている。

皆さんはどういう自分でありたいですか？

